

1 福岡県や日本の地しん災害

指導のねらい

- 過去に発生した自然災害を通して、これから先もこれまでに経験のない災害が起こる可能性があることを理解し、災害時に早めに避難することができるようになる。
- 災害発生時の関係機関の取り組みを理解する。
- 釜石市の小中学生の行動から、避難の3原則の重要性を理解し、災害時に周囲の意見に逆らっても、率先して命を守る行動がとれるようになる。
- 同年代児童生徒の被災経験を通して、改めて防災を見つめ直し、自分事としてとらえ、日ごろから災害に備える行動ができるようになる。

■学習指導要領

生活科

第1学年及び第2学年の内容

〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕

- (1) 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活はさまざまな人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。
- (3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着を持ち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

社会科

第3学年の内容

- (3) 地域の安全を守る働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (ア) 消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する態勢をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力などを身に付けること。
 - (ア) 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動をとらえ、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。

■授業展開例(15分)

時間(分)	学習活動	指導上の留意点	副読本該当項目
0	家庭学習で、過去の地震について家の人に話を聞いておく。	<ul style="list-style-type: none"> ●ノートに聞いたことを書いておく。 	
2	1 日本は地震が多い国であることを理解し、学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ●過去に発生した地震や津波について児童に問いかけ、児童に発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.0「福岡県内の小学校1年生・2年生・3年生のみなさんへ」
5	2 平成28年(2016年)熊本地震、大阪府北部の地震、福岡県西方沖の地震がどんな災害だったか確認しながら、気付きや教訓を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ●国内では、いつ、どこにいても地震が起きてもおかしくないことを理解させる。 ●消防、自衛隊など各種機関が災害時に救助活動や援助活動を行うことを理解させる。 ●これまで経験したことのないほどの災害が今後も起こることと、いつ起きても慌てずすむように備えておくことの重要性を理解させる。 ●平成28年(2016年)熊本地震、大阪府北部の地震については感想を書かせるなどの対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.1-3「福岡県や日本の地しん災害」
3	3 東日本大震災の出来事から気付いたことや教訓を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時に自分たちで考え、避難行動がとれたことを「すごい」と思うだけでなく、自分たちも同じように行動ができるようになることを理解させる。 ●同じように行動ができるようになるには、どうすればいいのか考えさせ、書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.4-5「大きなひがいのあつた地しん」
3	4 実際に被災した小学生のインタビュー記事から気付いたことや教訓を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ●地震が起きたらどうするか、など事前に保護者と話し合っておくことが大事だと理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.6-9「そのときどうしたの？」
2	5 本学習を振り返る。		

■補足説明

①福岡県西方沖の地震の 主な被害状況と特徴

(消防庁発表、平成21年6月12日13時00分時点)

区分	件数	内訳
人的被害	1,187人	死者：1人、負傷者：1,186人
住家被害	9,680棟	全壊：143棟、半壊：352棟、 一部破損：9,185棟 ※うち建物火災：1棟

※福岡県のみ抜粋

平成17年3月20日10時53分、福岡県西方沖を震源とする地震が発生しました。福岡市中央区・東区と前原市(今の糸島市)、佐賀県みやき町で揺れを観測しました。

マグニチュード7.0、最大震度6弱の地震だったにもかかわらず、過去の地震と比べると人的被害、建物被害が比較的少ないのが特徴です。これは、震源地が沖合の海上であったことや、阪神・淡路大震災以降に建物やライフラインなどの耐震化が進められたことなどが要因と考え

られています。

亡くなった方は福岡市内の高齢者の女性で、崩れてきたブロック塀の下敷きになりました。

②玄界島の住民の避難行動

震源に近い玄界島では、島の約8割の家が被害を受けました。地震発生当時、玄界島のほとんどの男性は漁に出ていました。島に残っていた女性や子ども、高齢者は、津波が来るかもしれないと声を掛け合い、高台や公民館の2階へ避難しました。住民同士のつながりが強く、避難所にいない住民の情報を持ち寄り、助けに行くなどしたそうです。その結果、10人の重軽症者はいましたが、死者は出ず、火災などの2次災害も防ぐことができました。

この行動を「共助」と言います。

③災害時の関係機関の対応

国→災害対策本部を設置し、被災地域の状況把握や被災地への人的・物的支援などを行い、福岡県や各市町村などの関係機関と連携して復旧・復興に取り組みます。

※29ページ①のURLをご参照ください。

県→災害対策本部を設置し、被災地域の状況把握や被災地への人的・物的支援、自衛隊や消防の出動要請、国への支援要請などを行います。

各市町村→災害対策本部を設置し、避難所の開設や運営、県や国への支援要請、ボランティアの対応などを行います。

警察→被害情報の収集、住民への避難広報・誘導、被災者の救出救助、行方不明者の捜索、交通規制などによる交通の確保、パトロールによる被災地の犯罪の予防・取り締まり及び避難所での相談対応など、被災地の安全安心を確保するための諸活動を行います。

1 ふくおかけん にほん さいがい
福岡県や日本の地しん災害

みなさんが住んでいる福岡県でも、地しんによって大きなひびがいたことがあるんだ。

福岡県は地しんがよくあるの？
福岡県は地しんが少ないといわれていたので、こんな大きな地しんがおきて、みんながおどろいたんじや。

平成17年(2005年)福岡県西方沖の地しん
平成17年3月玄海島 地しんでくずれた家 (画像提供:九州地方整備局)

消防→災害発生後、ただちに現場に急行し、被害情報の収集、傷病者の病院への搬送、救助を必要とする人の救出活動や行方不明者の捜索を行います。

福岡県西方沖の地震では、消防ヘリを使って玄界島へ行き、情報収集や救出活動、支援物資の搬送を行いました。

自衛隊→災害派遣の要請があった場合に、逃げ遅れた人の救出救助や、行方不明者の捜索のほか、避難所などでの炊き出し、給水、物資の支援などを行います。

福岡県西方沖の地震では、避難所に風呂を設置し、避難者にとっても喜ばれました。

※29ページ②のURLをご参照ください。

国土交通省(九州地方整備局)→災害から国民の命と暮らしを守るため、抜本的かつ総合的な防災・減災対策に取り組んでいる機関です。災害の危険が迫ったときには、防災情報を速やかに発信し、危機感を共有します。

また、発災時には、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)が被災状況を調査すると

もに災害対策用機械・機器を用いた緊急復旧を行うなど、被災自治体に対し速やかな復旧活動の支援を行います。

気象庁(福岡管区气象台)→警報など、災害から命を守るための情報を発表します。発災時などに気象庁防災対応支援チーム(JETT)を県や市町村などへ迅速に派遣し、地震や津波の状況など、適時に解説・助言などを行います。

福岡県西方沖の地震では、警察や消防、自衛隊の救助活動により、地震が発生したその日のうちに玄界島の島民全員がヘリコプターなどで福岡市内に避難しました。

①避難所生活で困ったこと

福岡市にあった福岡市九電記念体育館に、玄界島の住民443人が避難しました。不安を感じる子どもも多くいたため、子どもの遊び場が設置されるなど、物資の支援だけでなく、心のケアも行われました。

一方で、全国から非常食や衣類などの支援物



資が届けられましたが、小さな子どもがいる母親からは「オムツが足りない」などの声が上がりました。たくさん届くものもあれば、足りないものもあり、避難所生活に困る避難者もいました。

㊤バラバラになった家族

4月24日と25日に、玄界島の住民のための仮設住宅が玄界島と福岡市のかもめ広場に建てられました。子どもがいる家庭はかもめ広場の仮設住宅に住み、子どもたちは福岡市内の学校へ通いました。しかし、多くの父親は漁師だったため、父親だけ玄界島に戻り、バラバラになる家族が多かったです。

㊦平成28年(2016年)熊本地震の被害状況と特徴

(熊本県発表、令和2年6月12日16時30分時点)

区分	件数	内訳
人的被害	3,010人	死者：272人、負傷者：2,738人
建物被害	211,733棟	<p><住家> 全壊：8,657棟、 半壊：34,493棟、 一部破損：155,176棟、 床上浸水：114棟、 床下浸水：156棟</p> <p><非住家> 公共建物：467棟、 その他：12,670棟</p>

※熊本県の被害状況のみ

平成28年4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震源とする地震(マグニチュード6.5)(前震)が起きました。さらに2日後の4月16日1時25分に、より大きな地震(マグニチュード7.3)(本震)が起きました。どちらも最大震度7を観測しました。

家屋被害の多くは耐震基準の古い木造住宅でした。前震では倒壊しなかったけれども、本震で倒壊してしまった住宅も多くありました。

また、死者272人のうち、約8割にあたる222

おお 大きなひがいのあった地しん



平成23年3月青森県八戸市 きゅう助活動を行う自衛隊 (画像提供:八戸市)

4

ひごろのくん練により多くの小中学生が助かった



この地しんで2万人ちがい人がなくなり、まだ2,000人以上が行方不明です。また12万以上の家がかわれて住めなくなりました。

平成23年東日本大しんさい当日、いっしょにひなんする釜石東中学校生徒と隣住居小学校の児童たち (画像提供:内閣府)

岩手県釜石市の小中学校では、ひごろからつねが来ることを考え、ひなんくん練をしていたため、小中学生3,000人が地しんがおきてすぐにひなんして助かりました。



すぐにひなんしなかったらみんな助からなかったかもしれないね。



ひごろのくん練が大事だということがわかるね。

釜石市の小学校で教えられていた「ひなんの3原則」を見てみよう。

ひなんの3原則

- ① この場所はあぶなくないといわれていても、**安心してはだめ**
- ② もうだいじょうぶと安心しないで、**もっと安全な場所にげつづける**
- ③ **まっ先ににげる人になれ**

H

5

人が震災関連死であることも特徴です。

◎大阪府北部の地震の被害状況と特徴

(消防庁発表、令和元年8月20日13時00分時点)

区分	件数	内訳
人的被害	390人	死者：6人、負傷者：384人
建物被害	58,790棟	<p><住家> 全壊：20棟、半壊：471棟、 一部破損：57,586棟、 床上浸水：3棟、 床下浸水：3棟</p> <p><非住家> 公共建物：702棟、 その他：23棟</p>
火災	3件	

※大阪府のみ抜粋

平成30年6月18日7時58分、大阪府北部を震源とするマグニチュード6.1、最大震度6弱の地震が発生しました。この地震で関西地方の主な鉄道が止まりました。なかには夕方になっても復旧しない鉄道もあり、通勤・通学で鉄道を利

用する人たちが困りました。

地震の周期が短く、継続時間も短かったため、建物の倒壊が比較的少なくすみました。しかし、ブロック塀の倒壊が目立ち、倒壊したブロック塀の下敷きになって2人が亡くなりました。

小学生がブロック塀の下敷きになり亡くなったことを受けて調査をした結果、建築基準法施行令に違反していることが分かりました。そこで文部科学省が全国の幼稚園と小中高校のブロック塀の調査を行い、撤去されたブロック塀もあります。

㊦釜石市 避難の3原則

①想定にとらわれるな

岩手県釜石東中学校の生徒は、最初、あらかじめ決めておいた避難所(グループホーム)へ避難しました。その場所は、ハザードマップでは津波の浸水区域外でした。しかし、建物の裏山の崖が崩れそうだったため、さらに高台にある介護福祉施設を目指し、最終的にはそれよりも高台にある石材店まで避難し

そのときどうしたの？

地しんを体験した小学生に
災害がおきたときのことをきいてみたよ。

平成28年(2016年)熊本地しん



地しんでいろいろなものがおれた事務室



益城町立飯野小学校卒業生
(地しんにあったときは2年生)

村上 美咲さん

※インタビュー・写真は小学6年生時のものです。

6

地しんがおきたとき、どうやってひなんしましたか？



となりに住んでいるおじさんがやってきて、ベランダのまどから、わたしをだきかかえて、にがしてくれました。

お母さんが出てくるのを外でまちました。まっている間もゆれて、こわかったです。お母さんが出てきたら、いっしょに町の公みんかんにひなんしました。

ひなん生活の様子を教えてください。



ひなん所では、ひじょう食が配られたり、外で温かい食事を作ってくれる人たちがいたりしました。ひなん所では2日間くらい過ごしました。

その後は、熊本市内のお母さんの実家でひなん生活を始めました。しばらくは、お母さんの実家から小学校に通いました。8月に益城町にもどりました。

7

ました。避難所になっていたグループホームは津波に巻き込まれました。

ハザードマップを信じて、グループホームにとどまっていたら、多くの命が失われていました。ハザードマップは、あくまでその地域の土地の成り立ちや災害の素因となる地形・地盤の特徴、過去の災害履歴、避難場所・避難経路などの情報から想定したものです。想定にとられなかったからこそ、釜石の奇跡は起きたのです。

②その状況下で最善を尽くせ

その場でできる精一杯のことをしなさい、という意味です。

③率先避難者たれ

いざというときは、周りの意見に逆らってでも自分の命を守るために最初に避難できる人でありなさい、という意味です。

①長期避難しつつ通学した村上美咲さん

平成28年(2016年)熊本地震当時に村上美咲さんが住んでいたのは、A棟からE棟まで5棟に分かれたアパートでした。本震で4つの

棟が倒壊しました。村上さんの部屋があったE棟は最も新しく向きも違っていたため、倒壊を免れました。そんなひっ迫した状況があったため、隣の住人がすぐに助けに来てくれたそうです。ベランダから逃げたのも、逃げる途中の建物の倒壊を恐れてのことです。本震の後も震度5以上の地震が連続して発生しました。立ってられないような揺れが幾度も襲い、美咲さんは恐怖と不安のなか母親と合流し、避難所へと向かいました。

倒壊はしませんでしたでしたが、美咲さんが住んでいたE棟も半壊判定となり、住むことができなくなりました。美咲さんはランドセルと勉強道具を、母親は生活に必要な物を持ち出し、母親の実家へ避難しました。しかし、実家がある熊本市の西区は海に近い地域のため、続けて起こる地震が来るたびに出る津波警報によって、車中避難を余儀なくされたこともありました。

学校は5月初めに再開しましたが、美咲さんが益城町で暮らし始めることができたのは8月になってからでした。その間、美咲さんはお母さんの実家から、約1時間をかけて学校に通いました。

地しんがきて、学んだことは何ですか？



ひなん所に持っていくものをじゅんびしていたけれど、地しんでタンスがたおれて、ふくろを持ち出せませんでした。

持ち出しやすいところにおいておくことや、もつがどこにあるのか、家族のみんながいつもわかつていいることが大事だと思ひます。

水が出なくなつて、のどはかわくし、おさをあらつたり、おふろやトイレも使えなかつたりして、こまりました。水が出ないと人は生きていけないので、本当に大切なものだと学びました。

地しんのあと、気をつけたことは何ですか？



また地しんがきたら、どうやって自分の命を守るか、お母さんと話し合つて決めました。

8

先生にきいてみました

そのとき学校は？



地しんでかささまになったグランドピアノ



運動場にたてられた、かせつじゅうたく(住んでいた家に災害で住めなくなった人のための家)

地しんのあとすぐにひなんしてきた町の人たちが体育館がいっぱいになりました。グランドピアノがかささまになっていて、おどろきました。

5月に学校がはじまったとき、小学校には、まだひなん生活を続けている方がたくさんいました。勉強する所と、ひなん生活をする所をしっかりと分けるようにしました。そのあと、運動場にひなんした人のための家がたちました。

9

①飯野小学校の対応と課題① 避難者と児童の交流が鍵

平成28年(2016年)熊本地震は、前震も本震も夜間に発生したため、児童たちが学校で被災することはありませんでした。しかし本震後、小学校にさまざまな課題をもたらしたのが、地域住民の避難生活と、できるだけ早く再開する必要があった子どもたちの学校活動との両立です。

体育館は避難所となり多くの人々がそこで寝起きを続けていました。学校を再開した5月になっても、多くの住民が体育館を寝泊まりの頼りにしていました。

そこで飯野小学校では、避難者が使用するトイレは児童たちの使用を制限するなど、避難生活と学びの場をできる限り分け、避難者のプライバシーに配慮しました。

また、発災・避難直後から「青空教室」という名で子どもたちの遊びや学びを再開しただけでなく、高齢者の肩もみをするなどの活動も実施しました。これらの活動により避難者と児童の交流が深まり、避難者がいる場所での学校の再開をスムーズに行うことができました。

②飯野小学校の対応と課題② 避難訓練を見直し

もう一つ課題となったのが、仮設住宅の敷地として運動場が提供されたことです。仮設住宅を建てられそうな校区内の場所は浸水のリスクがあったため、飯野小学校の運動場が提供されました。一時避難とは違い、長期にわたり子どもたちの運動場を使用することには反対意見が想定されましたが、地域住民の理解により仮設住宅が造られました。学校は積極的にメディアの取材などを受けることで、学校と仮設団地住民の良好な関係を発信することに努めました。

さらに飯野小学校は、それまでの避難訓練の見直しを行いました。災害発生時の行動に対するマニュアルは必要ですが、何よりも「自分の命は自分で守ること。そのために、自分で考え判断すること」の大切さを子どもたちに教えています。また、平成28年(2016年)熊本地震と同規模の被害をもたらした明治22年の熊本地震が、熊本でほとんど語り継がれていなかったことを踏まえ、教育の現場として熊本地震を「語り継ぐ」ことにも力を入れています。自分の体験を語ることは心のケアにもなると考え、子どもたちにも語る機会を積極的に設けています。

板書例

めあて 地しんのとき、どのようにしたら命を守ることができるかを考えよう。

〈熊本(くまもと)・大阪(おおさか)・福岡(ふくおか)の地しんで気づいたこと〉

- ・地しんは、いつおきるかわからない。
- ・ひなでできなかった人を助けているのは、消ぼうやけいさつの人たちだった。
- ・家の人といっしょに、なにかふだんから持ち出すものを用意しておいたほうがよい。

地しんは、いつ、どこでおきてもおかしくない！
ふだんから地しんにそなえておくことがたいせつ！

〈「ひなんの3原則(げんそく)から気づいたこと〉

- ・いま、いるところより、少しでもあぜんなどところへにげる。
- ・とにかく、すぐ、にげる。

〈まとめ〉

- ・いつ地しんがおきてもあわてないように、ふだんからじゅんびをしておく。
- ・どこへひなんするか考えておく。